

金閣寺で感じる京都の四季

鈴木ゼミ 5期生 泉由夏
(2021年入学 鈴木ゼミ 5期生)

金閣寺とは

京都でいちばんの観光スポットは金閣寺だろう。古き良き歴史をもち日本の古都である京都には時期や国内外を問わず、多くの観光客が訪れる。そんな京都には清水寺、伏見稲荷大社、二条城、東寺など有名な歴史的建造物が多く存在し、観光名所となっている。その中で特にインパクトがあり人々を虜にするのは金色に輝く金閣寺だろう。1994年には「古都京都の文化財」として世界文化遺産に登録された。新型コロナウイルス前の金閣寺への参拝者数は年間約500万人で、連日約1万人以上が、お参りされていた。そのうち、約7割近くは、外国からの観光客である。このように金閣寺は観光名所として有名であるがさらに多くの人に魅力を知ってもらいたい、地元である京都の観光遺産を知り、守りたいと思い金閣寺をテーマに選んだ。

金閣寺の歴史

金閣寺の正式名称は鹿苑寺という。臨済宗相国寺派の塔頭寺院のひとつで、その名は足利義満の法号である鹿苑院殿から名づけられた。鎌倉時代に西園寺公経が所有していた土地に建立された西園寺・北山第という別荘が始まりとされている。鎌倉幕府の倒幕後、西園寺家は権力を失い土地を手放すこととなった。室町時代に入り、荒廃していたこの場所を室町幕府第3代将軍であった足利義満が譲り受け、1397年(応永4年)に山荘北山殿が造営された。金閣を中心とした庭園・建築は極楽浄土をこの世にあらわしたといわれ、有名な一休禅師の父である後小松天皇を招いたり、中国との貿易によってもたらされた唐文化を取り入れるなど、文化の発展に貢献した舞台である。その後応仁の乱の勃発によって、本山相国寺をはじめ多くの禅寺が焼討にあい、鹿苑寺もその被害にあったが、金閣、石不動堂、護摩堂などは焼失を免れた。しかし、1950年に金閣寺の見習い僧による放火によって全焼してしまう。この事件は社会を驚かせ、三島由紀夫や水上勉などの作家によって事件を題材にした長編小説が執筆された。この放火により金閣寺の舍利殿は、輝きとともに創建当時の姿も失ってしまったが、全焼から5年後に舍利殿は再建された。金箔の全面張り替えなどの改修を経て、現在の姿となった。



焼失前の金閣寺

金閣寺の特徴

金閣寺は金色に輝く舍利殿で有名だが、魅力はそのほかにも多く存在する。今回は四つを紹介する。まずは、金閣寺の近くの「鏡湖池」と呼ばれる池である。湖に映る金閣寺のことを「逆さ金閣」と呼び、丘の上から見る金閣寺を「見返り金閣」という。水面に映った金閣寺はとても美しく、時間や天候、季節によってもそれぞれ違う顔を見せる。二つ目は、「龍門の滝」だ。鯉が登ると龍になるという中国の故事にちなんでつくられた。滝の下には鯉に見立てた鯉魚石が置かれている。三つめは金閣寺の東北にある「夕佳亭(せっかてい)」とその近くにある「不動堂」だ。「夕佳亭」は夕日に映える金閣が殊(こと)に佳(よ)いということから名づけられた。「不動堂」の本尊は弘法大師が作ったと言われる石不動明王である。豊臣秀吉の重臣であった宇喜多秀家が再建したとされ、金閣寺の境内にある建物の中で一番歴史があるともいわれている。最後は、鏡湖池の北にある書院の庭に植えられている「陸舟の松」だ。京都三松のひとつに数えられるもので、足利義満が手植したと言われている。松でありながら、舟の形に見えるのも面白い。このように金閣寺には舍利殿だけでなく、その近くにも多く歴史的な建造物や季節を感じることができる自然が溢れている。

金閣寺の魅力

私は、金閣寺の一番の魅力は季節によって違った姿を見せることだと考える。一つ前の章、金閣寺の特徴で紹介した場所も素晴らしい魅力があるが、特に舍利殿。舍利殿は春夏秋冬それぞれの魅力を持つ。春の魅力は舍利殿のそばに咲く山桜だろう。京都は多くの桜の名所があり、金閣寺の近くにも龍安寺や仁和寺、平野神社など多くの桜が咲きお花見の名所になっている場所がある。しかし、金閣寺に咲く桜は金閣寺のそばに咲く山桜と境内にいくつかある桜のみである。その質素さが趣深く、金色の舍利殿との対比が美しい。夏は、青空に青々と映える木々、太陽の光が強く当たる黄金の舍利殿が美しい。京都の夏は、湿度が高いため過ごしにくく、観光には不向きだが、青々とした木々と黄金色の舍利殿を見れば熱さも和らぐだろう。秋の魅力といえば、紅葉だろう。赤や橙、黄に染まった葉と金色の舍利殿のコントラストが特に美しい。鏡湖池に映る逆さ金閣と紅葉のカラーコンビネーションも素晴らしい。参道には散った紅葉が赤い絨毯のように広がる。周辺が住宅街であるため夜間のライトアップなどは行われないが、日中の金閣寺こそ日本らしさをより感じられるだろう。冬は、なんといっても雪化粧した金閣寺だろう。あたり一面が雪で覆われ真っ白の世界の中にたつ金閣寺はとても美しい。幻想的で別世界のような景色である。金閣寺がある京都市北部は比較的積雪が多いが、めったに積もることはないので、運が良ければ見ることができるだろう。このように静寂な雰囲気に住む金閣寺は、どんなシチュエーション、季節であっても見る者を圧倒するオーラが感じられ、多くの人々を魅了させる。さらに、実物を目の前にすれば、教科書や本で見た印象が覆されるだろう。



春の鏡湖池を彩る桜



夏の青空と黄金の舍利殿



秋の舍利殿と鏡湖池と紅葉



冬の雪化粧した舍利殿

最後に

京都には金閣寺だけでなく他にも多く有名な観光名所が存在する。どれも歴史的な価値があり、これからの世代に受け継いでいくべきものだ。しかし、コロナウイルスの影響により観光客が減少、地元住民の生活に被害を与える観光公害問題などがある。京都が、金閣寺が、地元住民にとって観光客に誇れる存在であり続けてほしいと考える。そのために私たちは、もっと京都や金閣寺など観光地に関する知識をつけて、歴史を理解し、観光に関する社会課題と向き合い解決していかなければならない。

参考文献；[外国人観光客のいない「金閣寺」 | 地球の歩き方 \(arukikata.co.jp\)](https://arukikata.co.jp/)

[金閣寺について | 金閣寺 | 臨済宗相国寺派 \(shokoku-ji.jp\)](https://shokoku-ji.jp/)

[京都といえばここ！「金閣寺」の魅力を確認しよう | NAVITIME Travel](#)